
夏祭りの恋心

はっぴ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏祭りの恋心

【Nコード】

N4595B

【作者名】

はっぴ

【あらすじ】

コナンと蘭は、2人で夏祭りに出掛ける。そこで、蘭は新一とある出来事を思い出す。それは、新一と蘭がまだ6つの時のことだった……………

「蘭ねえちゃん！はやく、はやく！..」

コナンは蘭の手をグイグイ引っ張る

「コナン君、そんなに急がなくても花火はまだ始まらないよ？」

ここは 米花公園

でも、今は公園ではなく、夏祭りの開催場となっている

コナンと蘭はその夏祭りに来たのだ

蘭は、青に赤い金魚の模様がついた浴衣をきて、コナンも紺色の浴衣を着ている

「ねえコナン君、何処に行くの？」

「花火会場だよ..」

「えっ？でも、まだまだ30分はあ.....」

蘭はいきなりピタッと立ち止まる

「ど、どーしたの?? 蘭ねえちゃん」

「あつ、うつん。なんでもない！ゴメンね、行こ」

そう言いながらも、蘭の視線はチラチラと【金魚すくい】の方に向いている

「蘭ねえちゃん、金魚ほしいの?？」

蘭はしきりに首を横に振る

「うつん。ちょっと昔の頃のことを思い出してただけだから……」

そう言つて蘭は、ニッコリ笑う

コナンには、そんな蘭の顔が無理に笑顔を作っているように見えた

「……………僕がとつてきてあげる」

「え???」

「金魚」

コナンはそう言つと、金魚すくいの方にかけていった

「お兄さん、一回やらせてっ!!」

「おう!いいぞ、坊主 ガンバレヨ」

「うつん!」

蘭はコナンの隣につく

コナンの姿を見ていて、蘭はある昔のことを思い出していた

それは……………

【まだ、たった6つの2人の思い出】

「新一、しんいちいゝ！はやくう」

「悪いゝ蘭！！」

新一は、ハアハアと息を切らせながら蘭のところへ向かう

「悪い、遅れちゃって……………」

「うっん、別にイイヨ！！行こっ」

「……………ああ」

新一は、ポツと顔を赤くする

蘭のサラサラな長い髪の毛は、2つのおだんごにされていて

ピンクに花火の模様が入った浴衣を着ている

（蘭、可愛い……………）

新一は歩きながらも前を見ずに、ずっと横にいる蘭の方を見ていた

「どうしたの？新一」

「え？あ、あーいや……………べ、別に」

まだ、たったの6つ

ポーカーフフェイスは保てない

「あつ！！」

蘭は真っ直ぐに目にはいったものを指差す

「金魚すくい??」

「うん……………」

「金魚、ほしいのか？」

「うん……………」

蘭はほんのり顔を赤くさせて、新一の顔を見る

「たくつ……………しょーがねーな、俺がとってやるよー!」

「本当!??ヤッタアアア……………」

そのまま2人は金魚すくいの所までかけていく

「お兄さん、一回やらせてっ!!」

「ほいつ、坊主、ガールフレンドのために、ガンバレヨ!!」

「へ???.....あ、はい」

「新一、がんばってネ!!」

「おうっ!!」

新一は、真剣な眼差しで金魚を見る

「トリヤッ!!」

新一はバツと金魚にめがけてあみを.....さす

そして、あみが破れる

「ああ」

新一と蘭の、2人の声は綺麗にそろっ

「坊主、いいか?あみはな、さすもんじゃなくてすくうもんなんだぞ!!上手く金魚をすくうコツはな、ここをこーして.....」

持ち方から、細かな色々な部分まで直される

「よしっ！！これでバッチリだあ、坊主」

「うん！」

新一はまた、真剣な眼差しで金魚を見る

（絶対、絶対にとってやる……………）

パシヤッ

今度は何も声を出さずに、ゆっくりとあみを水の中に入れ、パツと金魚をすくう

新一と蘭の顔は、パツと明るくなる

「と、とれたあああああ………けど、コレ何？？」

とれたのは、真っ赤な金魚ではなく黒い金魚

「何コレエエー」

新一と蘭の顔が、少しゆがむ

「それも、立派な金魚だよ！坊主、嬢ちゃん」

2人の様子を見て、金魚すくいのお兄さんが口をはさむ

「お兄さん、本当？」

初めて蘭が、金魚すくいのお兄さんに話しかける

「ああ、本当だとも！！そいつはな、デメキン っていうんだ」

「デ、デメキン！？」

また、2人の声は綺麗にそろつ

そう言いながら、お兄さんは新一がとつたデメキンをビニール袋に入れ、新一に渡す

「ほらよ、坊主」

「あ、ありがとうお兄さん」

新一はデメキンを受け取ると、蘭の顔の前に突き出す

「ほらっ！ヤルヨ、ほしかつたんだろ？金魚」

「う、うん………ありがとう」

蘭は、苦笑いを浮かべながらデメキンを受け取る

（本当はデメキンじゃなくて、真つ赤な金魚が良かったけど………
新一がとってくれたのなら、なんでもいいやつ）

蘭の顔は、苦笑いから明るい笑顔に変わる

それと同時に、空には満開の花が咲き始めた

ヒュ〜 ドーン

「あっ！花火始まつちまった。行くぞ、蘭！」

「え？うん……」

新一はギュツと蘭の手を握り、花火が良く見える所までかけていった

「……んねえちゃん、蘭ねえちゃん！！」

「えっ？な、何コナン君？」

コナンに呼ばれ、蘭は現実に取り戻される

「金魚、とれたよ」

「え？？」

コナンは、金魚が入ったビニール袋を蘭の顔の前に突き出す

でも、中に入っている金魚は真っ赤な金魚ではなく、黒い金魚だった

「あげる！赤い金魚じゃなくて、ゴメンね？」

「うっん、全然いいよ、ありがとう、とっても嬉しいヨ」

蘭はニツコリと、心から笑った

そんな蘭の顔を見て、コナンもニツコリと笑う

（真っ赤なあの金魚は、俺が新一に戻ったらとってやるよ、蘭。それまでは、デメキンで我慢しとけよな？）

ヒュッ ドーン

「あっ！花火始まっちゃったあゝ見やすい場所とろうと思ったのに……」

「クスッ だから、あんなに急いでたのね？」

「う、うん……」

（いつかまた、一緒に見にこようね 新一）

（いつか絶対、絶対に戻ってくるから待ってるよ 蘭）

ヒュッ ドーン

花火は、2人の再開を祈るように

何度も何度も、色とりどりの満開の花を空一面に咲かせていった

（後書き）

読んでくださった方、ありがとうございます
初めての、新×蘭です。

と言っても、2人が6つの時のお話ですが……
評価&感想も、宜しく願います!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4595b/>

夏祭りの恋心

2010年10月24日04時01分発行